

学校だより 希望の鐘

ひとつの鐘は、いちどしかひらかない



八 戸 市 立 小中野中学校

平成29年7月21日(金)

No.91

文責：校長
工藤聡

夏休み 心にとめてもらいたいこと

きょうで4か月にわたる1学期が終わります。修学旅行や遠足、グッジョブ、市中体夏季大会などありましたが、生徒会を中心に、それぞれが適材適所で取り組み、大きく輝いてくれたと思います。特に市中体夏季大会では、選手・応援団の全員がコナ中プライドを持って臨んでくれたことが、私にとって一番うれしいことでした。

以前、オリンピック選手のコーチをしている人が言っていたのですが、オリンピックの大舞台でいい成績を収めるには、体力や技術を高めることはもちろん必要ですが、それ以上に心を鍛えることが大切なのだそうです。動作は気持ちに支えられていると言うのです。その気持ちを鍛えるために中学生ができる簡単なメンタルトレーニングは、「挨拶をすること、返事をすること、履物をそろえること」の3つなのだとも言っていました。この「挨拶をすること、返事をすること、履物をそろえること」の3つのうち、挨拶に関しては、私はかなり向上してきたと思っているのですが、みなさんはどのように感じるのでしょうか。

さて、いよいよ明日から、1か月間の夏休みが始まります。規則正しい計画的な生活を送り、自分の立てた目標の実現に努力してもらいたいと思います。

夏休みは、普段の学校生活はありません。学校に出て来ても部活だったり、出校日だったり、格段に短いわけですから、その分自由になる時間が増えると同時に、自身の行動に責任を持たなければなりません。もしかすると、事故や事件に巻き込まれる危険性も、心の持ち方一つで高まります。それを防ぐため、心掛けてもらいたいことがあります。それは、外出する時に、服装には注意してほしいということです。

少し難しいのですが、「制服感情」という言葉があります。アルバイトの高校生が、「バイト先の制服を着ると身がひきしまる」という話をよくするそうです。警察官や消防士の方からは、「制服に身を包むと、使命感が高まる」という話も聞いたことがあります。昔の川柳に「いい着物、着れば家でもかしこまり」とありますが、その意味は「家では多少だらしく振る舞ったり、そこまですりずみしてしまいが、いい着物を着ると、まるで外出したかのような気持ちになって、自然に礼儀を失わないような控えめになる」ということでしょうか。このように、多くの場合「制服感情」はプラスに働くと考えてよさそうです。みなさんも部活動の試合の時、ユニフォームや剣道着・柔道着で身を固めると「さあ、がんばるぞ」という気持ちになったことがあるかと思います。このように、着ているもので気持ちが影響を受けることを「制服感情」と呼んでいるのです。この「制服感情」は、自分への影響だけでなく、周囲の人の受ける印象や人物評価も含んでしまいます。きちんとした身なりの人を見て「まじめそうな人だな」と感じたり、だらしない服装の人には「信用できる人だろうか」と疑いの気持ちを持つなどの例もあります。

「よそいき」という言葉もあります。「服装、話し方、しぐさが普段と違って改まっていること」です。結婚式などには、きちんとした服装で参加します。ふだんはにぎやかでおもしろい人でも、入学式や卒業式では真剣な表情となります。「普段とは違うんだ」という清新な気持ちを持つことが、「よそいき」なのです。大切な日本の習慣ですが、外国でもTPO（T→タイムで時間 P→プレイスで場所 O→オケーションで場合）と言って、時と場所と目的をわきまえた行動がとれない人は低い評価しか受けられないようです。お葬式の時に、笑っている人は絶対にいないのと同じです。

夏休みは自由な時間がとれるため、普段と違っていろいろなことができると思いますが、「制服感情」の持つ意味をよく考え、「よそいき」の心を忘れずに行動してほしいと思います。

中学生として初めての夏休みをおくる1年生は、まずは宿題などの学習と部活動を両立させるてください。2年生は1年生とは違い二度目で余裕があるはずですから、部活動では1年生をリードしながら、家の手伝いなどにも積極的に取り組んでください。3年生は、受検を意識し、生活の80%を学力向上にあて、残り20%で体力維持や健康増進に努めることが大切です。これを目標を決める時の指針にしてください。最後になりましたが、事故のないように、元気に過ごしてください。

(終業式の校長講話を編集しました。)